

Web 情報におけるコンテンツとデザイン:

ホームページ依頼作成実習の試み

片岡 朋子・早稲田大学 MNC, 明治大学

原田 康也・早稲田大学法学部

連絡先 東京都千代田区神田駿河台 1-1

明治大学教育研究システム課・03 3296 4438

E-mail: ri03031@kisc.meiji.ac.jp

1. はじめに

「ホームページ」という語は、文脈によりあいまいである。すなわち、例えば「ホームページ検索・閲覧」などというとき、いかに複雑な階層構造をもつサイトであろうと、「トップページ」で始まる「その個人・組織を紹介しているサイトを構成するページ群」と解釈されるのが通例であろう。一方、「ホームページ作成」というとき、Webブラウザで読み込み・表示可能な「html文書の作成(手法を学習すること)」が意図されることが、多くあるのではないか。ところが後者の場合、作成者が自らのページ(群)を(自らについての情報を材料として)作成することが通例となっている、のである。その背景には、「自らについて語りたい(表現したい)」という、学生が当然もつであろう欲求を、情報機器を使用して実現させること」といった固定的な目的意識が存在するように思われる。¹⁾

何かがおかしくないだろうか。公開したい情報の中身(コンテンツ)は何なのか、それをどのように提示したい(デザイン)のか。個人トップページを含まないサブサイトのみを、学生が相互に請け負って作成してはいけないのか。本論は明治大学情報科学センター開講科目「文字情報論」の2クラスで、2002-3年度に片岡が行った試みを紹介する。予測通り、そして予測した以上に、Web 情報におけるコンテンツと表現(デザイン・加工)が峻別され、情報とは何か、情報のインタラクティブな表現形態とは何か、の本質が見えてくる。

2. 対象クラスとバックグラウンド

「文字情報論」は、「情報基礎論」(I,II各半期 2 単位)の単位取得を前提とする、2 年次以上学生対象の講座である。講座のポイントとして「a.文字情報の電子化の方法と仕組み、b.文字型データベース(DBMS、HTMLなどのマークアップ言語による構造化)、…」²⁾を含む。クラスサイズは 10 数名から多くても 30 名程度でTAが一人つく。情報基礎論と同様、理工・農学部以外の全学部(法・商・政経・文・経営)からの混成となる(和泉校舎 2 年のみ、駿河台校舎 3・4 年)。

本作業以前に、個人ベースのリサーチと結果のテキスト化(秀丸エディタを使用)、PowerPoint を用いてのプレゼンを課している。したがって、今回 HTML 化の対象(Fig.1 参照)とするクラスメンバーのコンテンツについてはおおむね了済済みである。コンテンツ作成者=Webページ作成委

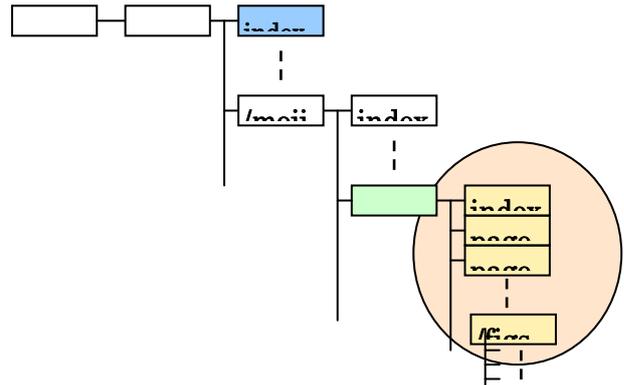


Fig. 1: 円部分を作成委託

託者(クライアント)とWebページ作成者(作成者)をペア(もしくはトリオ³⁾)とし、可能な限り異なる学部・学科の学生を組み合わせるようにした。

Web文書化に際し、テキスト処理に使用を許可したのは秀丸エディタのみで、いわゆるホームページ作成ソフト⁴⁾の使用を禁じている。タグを十分に理解させるとともに、いかなる環境にあっても作業が可能であり、バージョンの違等で再作業を余儀なくされる危険性を排除するため、およびこれらのことを学生に自覚させるためである。

3. 本実習の意図と成果

本実習を試みるきっかけとなったのは注 1)の観察に基づく。実習の成果を以下のように予測した。

- コンテンツ完成を作業の前提とするため、文章構成・構造をコンテンツ作成当初から明確に意識する
- 委託・受託→仮納品→最終納品、というステップを踏むことで、納期を守ることを覚える
- 仕様書作成を学び、その重要性を認識する

本実習は、マークアップ言語を用いたテキスト処理が最終目的であること、講義時間の制限(1回90分の半分程度の作業時間×数回として実施)などから、次の条件を課してみた。ただし、両者の合意があれば、ある程度の自由度は許容している。

- * テキストファイル、画像ファイル(自作のもの、あるいは自分で撮ったデジカメ写真など)は、クライアントが用意する
- * テキストファイルの内容(クライアントのリサーチ経過と結果。特に技術面の情報など)を作成者が理解できている必要はない
- * クライアントが、あるいは 2 人で、構成図を作成する(手

書き、可能であれば Word で作図)

- * ページデザインを作成する(手書き)
- * 上記 2 書類を合わせて仕様書とする(特に希望する事項があれば明記する)
- * 仮納品日を片岡が指定、作成したファイル群をサーバにアップして動作確認する
- * クライアントから修正希望が出たら、ファイルを修正する
以下、結果について述べる。予測 A)については、学生の反応が予測を上回るものであった。引き渡すべきコンテンツの最終形態とデザインの指定に、コンテンツの提示直前になって苦慮しているのが観察された。興味深いのは、実際に相手の学生に説明し、「わからない」と言われてからやり直すのではない点である。自分では「完成していたつもり」「イメージができていたつもり」なのに、「これでは自分の意図を理解してもらえないだろう」と客観的に判断したことになるからである。

コンテンツ交換後、HTML 化過程に入ってからでもコンテンツファイル修正希望を出す学生がいた。他人の目に触れる、というレベルを超えて、他人に自分の作成したファイルを加工される、ということを実感し出した証拠である。自分の材料を自分で料理する従来の手法では、この「情報を他人に伝える能力」「他人に指示を出して作業させ、フィードバックさせる能力」を鍛えることは困難であるばかりか、その必要性に気づくこともないまま終わるのではない。

B)についてはかなり効果があったといえる。だからだといつまでも作業する、という姿勢は改善された。特に、仮納品日(教授者が指定)にサーバへのファイル転送と動作確認をする際、ファイル名・拡張子の指定、ファイルの場所等に起因するさまざまなトラブルを経験し、原因を究明・解決していくという経験をさせることができた。この場合も、自分のページではないから、うまく表示できなければクライアントに対して責任を感じるわけで、実際、非常に真剣にソースファイルの修正を行っているのが観察された。

C)についてもある程度の成果は得られたといえる。仕様書作成については、次のようなタイプのペアが出ている。

- * コンテンツのみ引渡し、構成・デザインを含めすべて作成者にまかせる
 - * 構成のみ 2 人で決定
 - * 構成・デザインとも 2 人で決定
- 構成を作成者任せにし、ページデザインのみ希望を出したクライアントは出なかった。

4. 今年度の計画

本実習について以前発表した際に、「クライアントと作成者がペアになっているが、スキルの高い学生がリードしてしまうことはないのか」というご指摘をいただいた。昨年度については、そうした例は見られなかったが、危険性は確かにあるといえる。就職活動などの影響もあり、欠席が出たり、出てこなくなってしまう学生もいたりするのだが、最低 7 人程度のグループで、「 $a \rightarrow b \rightarrow c \rightarrow d \dots g \rightarrow a$ 」というようにじゅずつなぎ状に委託作成することを計画している。また、

仕様書とさらに変更履歴をテキストファイルとして作成させ、Web 作成者のサイトに置いて全員から参照可能とすることを考えている。

5. ページの著作権

本論のような試みの場合、Web ページの著作権はどう規定されることになるのだろうか。作成依頼者がデザイン面の細部に指示を出したり、画像ファイルまで提供しているような場合、著作権法第 2 条における「共同著作物」に当たるかどうかについては、こうした、委託者の関与度が高い場合であっても著作権が製作者のみにある、とした判例⁵⁾がある一方、「共同制作者」である、と見なし、製作者の関与度が「単なる技術的な面だけのもの」であれば、委託者側に著作権がある、とする判断もあるようである。⁶⁾

Web ページには更新がつきものであるから、依頼者が自由に更新できるためには、契約書あるいはページ自体に著作権が依頼者側に存することを明記しておくのがよい、ということは間違いない。⁷⁾

6. まとめ

個人リサーチのアウトプットを相互に Web 作成することにより、情報のコンテンツと表現を意識させ、更に仕様書を作成し、これに沿って作業・フィードバックを行なうことにより、ビジネス(研究)場面におけるドキュメントの重要性を実感させることができた。今年度は、委託形態をより工夫し、作業の「変更履歴」を記録させる計画である。また、前節に述べた著作権の問題を、より時間を割いて話題にし、徹底させていきたい。

注

- 1)この手法で 2 年ほどリサーチペーパー作成をさせてきたが、ともしれば文章構成も固まらないうちに HTML 化し始めたり、最終的に完成したのかどうかははっきりしないケースも見られた。
- 2)明治大学情報科学センター『2003 年度情報科目シラバス:情報基礎論 I・II 数値情報論 I・II 文字情報論 I・II 画像情報論 I・II 情報処理論 I・II・III』2003 年 4 月
- 3)この場合、クライアントと製作者が対にならず、第 3 節に述べるフィードバック効果の現われ方が異なることが期待された。しかしながら、うち一人の出席回数が非常に少なく、ファイル完成に至らなかったことが残念である。
- 4)明治の情報教室には「ホームページ Pro 3.0」がインストールされ、講習会でもこれを使用している。
- 5)<http://www.juas.or.jp/usc/manual/text-1/2-2-3.htm> (社団法人日本情報システム・ユーザー協会「共同で開発した場合の帰属」)。
- 6)<http://www.freeml.com/message/copyright@freeml.com/0000022> (FreeML「メッセージ著作権考 メーリングリスト 22」)。
- 7)明治大学情報教員 ML(teachers@kisc.meiji.ac.jp)において、石川幹人・仙波洋史・二宮智子各先生より、また電子メールにて早稲田大学・深澤良彰先生より、貴重なご意見をいただいた。ここに記して感謝します。